

コロナ現状下の市場変化

昨年の武漢ロックダウンからちょうど一年となります。コロナ禍の影響により、輸入食品を始め、和食・卸し・販売等大きな変化がありました。

まず、国家市場管理局の新たな規定により、輸入商品に対して通関後の検疫証明、+PCR 検査書+消毒証明+輸入元のオンライン登録証明 QR コードの必要が義務化されました。貯蔵倉庫に入れる際の必要条件になっています。これで日本からの農産品、一般食品そして水産品などの輸入が大変厳しくなっています。

和食レストランの経営も厳しくなり、お刺身などの生の食品から離れていく傾向も多く、温かい鍋料理メニューの提供店がほとんどで、閉店か転型かの選択に迷う店が少なくありません。中卸し業界の競争もますます厳しくなっています。しかし、ここ数年流行してきたテイクアウトはますます普及され、利用者が増えています。

現地にある天津伊勢丹はネット販売を始め、ライブオンライン販売も行っています。コロナで来場者が減っている今もオンライン販売を頑張っている新潟の企業（COOK-PAL/UCHIKAWA）もあります。天津伊勢丹がまもなく3号店のオープンを迎え、買い物の博物館（ショッピングミュージアム）として新しいイメージを展示する予定で、スーパーには日本産米を始め、新潟米の販売も期待されます。

現在、新潟産のお酒はまだ輸入できませんが、先日訪問した食材卸し会社社長の話では「久保田、八海山、上善如水等の新潟銘柄が多く知られていて、輸入解禁されたら、数多く販売されることに違いありません」との話でした。

販売市場の変化、ライブ・オンライン化によって生活がますます便利なる一方、商品の品質に対する要求がますます高くなると思われます。「Made in 新潟」の商品をたくさん中国で販売できるようにと心から願っております。

アジアビジネスネットワーク株式会社 代表取締役 韓汝四